

政策創造学ニューズレター

(愛称：テルマエ通信)

静岡市駿河区の国宝・久能山東照宮で寒桜が咲き始めました。境内には2本の寒桜があります。つばみが最初に開いたのは、国宝の正式指定を受けた昨年12月24日だったそうです。

2011年、最初にお届けする9号は、静岡サテライトキャンパス特集です。静岡サテライトキャンパスは、静岡または近郊に居住しながら、2年間で無理なく政策創造研究科の「修士（政策学）」またはイノベーション・マネジメント専攻の「経営管理修士（専門職）」（MBA）を取得することができます。キャンパス長の坂本光司先生や在学されているみなさんに投稿いただいております。

その他には、昨年12月に実施した都市政策文化創造群のシンポジウムのレポート、武藤ゼミの紹介もなど盛りだくさんの内容となっております。

どうぞ最後までご覧下さい。

（那須田摩美）

静岡サテライトキャンパス特集

静岡サテライトキャンパス（以下、静岡SC）は、平成21年4月に静岡市の中心部静岡駅から徒歩8分、静岡市役所から徒歩3分のBonest（ビネスト）7階に開設され、「政策創造研究科」と「イノベーション・マネジメント研究科」の2学科の講義が、平日の夜に**対面講義**又は遠隔ライブ講義により行われています。

対面講義は、本校の教室に比べ、少人数で行われるため、ゼミと同じように先生方と密接に話をするができます。先生方も静岡SCの院生は印象に残りやすいようです。

遠隔ライブ講義は、双方向のテレビシステムにより、本校と静岡SCの模様が同時に双方向で見聞きでき、会話が可能なシステムです。

静岡SCでは、同じメンバーで講義を受けることが多いので、院生同士で顔と名前を覚えることが容易で、新たな人的ネットワークを構築するいい機会になっています。対面講義の最終回には、先生を囲んで懇親会を開催したり、年に数回は、静岡SC長の坂本光司先生を中心に静岡SCの院生と静岡SC事務局も交えて2学科の交流会を行っています。

静岡SCは、企業経営者として実績をお持ちの方から若手の起業家、会社員、公務員まで、幅広い人材が結集しているため、

大学院での勉強や研究の範囲を超えた人間関係が構築されており、院生の企業経営や社会活動においても、大きな刺激と勇気を与えてもらう充電装置になっています。土曜日に登校する必要のある市谷キャンパスとは、一味違った静岡SCの存在は、院生のキャンパスライフをより充実したものにしていると言えるでしょう。

（小泉祐一郎）

坂本光司静岡SC長のインタビュー

静岡SC開設のきっかけは、教育文化産業の立地集積をテーマに都市づくりを進めている静岡市からの熱心な要請があったことと、法政大学としての地域貢献や地域戦略がマッチしたことが大きいと思います。法政大学はもとより中央に立地集積している伝統的総合大学の地方への展開は初めてのケースでした。

地元の安定的ニーズ・ウオッチの有無や遠隔と対面での教育・研究サービスの満足度等について心配する向きもありましたが、この間の関係各位の努力により、2つの研



坂本光司静岡SC長



増淵教授の対面講義



恩田講師の対面講義

究科をあわせ、10名程度の入学枠に対し、初年度も2年度も科目履修生をあわせ、入学枠を大幅に上回る学生が入学してくれました。いずれの学生も向上心が高く、かつ熱心で担当教授等からも高い評価を得つつあります。

今後は、静岡SCの修了生が、社会でなお一層活躍され、静岡SCの評価を一段と高めてくれることを期待しています。

静岡サテライトキャンパス在校生ブログ

静岡サテライトでは、大学院でどのような人たちがどのような活動を行っているかを「自分目線」でお伝えする為に在校生ブログを始めました。

大学院という場所は特殊で、そこで学ぶ人も特殊だと思われがち（事実、僕はそう

思っていました）ですが、まったくそのようなどことはなく、出身も、職業も、年齢も違えど、目的を持った多くの社会人の皆さんが再び学ぶという眩しい姿をブログで感じて欲しいと思います。

ちなみに、このブログは完全に学生自治で行われている、法政大学としては珍しいケースだそうです。狙いどおり、一番学生目線に近いソーシャルなメディアになっています。

（杉山浩之）

静岡サテライトキャンパス

<http://www.hosei.ac.jp/gs/shizuoka-sc/>

静岡サテライトキャンパス在校生ブログ

<http://shizukasc.jugem.jp/>

プログラム紹介⑥

公共政策群 政治・行政プログラム

武藤研究室

武藤研究室には、幅広く行政の研究を続けられてきた武藤博己先生の下に、様々な経歴と研究分野を持つゼミ生が集まっています。そのうち多数を占めるのは地方議会の議員を含む現役の公務員やその経験者ですが、民間でご活躍の方も少なくなく、民間の発想に行政的視点からのアプローチを加えることにより広がりのある研究に取り組んでいます。

そうした意味で当研究室が、政策を行政関係者の側からだけでなく、市民の視点から掘り下げて多面的に捉える機会を提供していると言えます。したがって、地域活性化や経済・経営などの研究分野が同居する政策創造研究科の中で、公共政策の分野は少し硬めに見えるかもしれませんが、研究の門戸は開かれており、官民の立場にかかわらず、社会問題解決の手段としての政策を広く学ぶことを可能にしています。

また、冒頭で紹介した職業の多様性に加え、20代から60代までの幅広い年齢層が所属していることから、多種多様な意見の交換がなされ、議論を一層深めることができます。

ゼミの運営は、修士課程ゼミ生が30分程度の発表、博士課程ゼミ生が1時間程度の発表を行い、時間の許す限り質疑応答を行

います。通常は発表後の冒頭に、武藤先生が発表内容全体を通じて、コンパクトに論点を整理した上で、ゼミ生からの質問に対して発表者が回答を行います。武藤先生による的を射た指摘は、短時間ではありながら、内容の濃い効果的な指導となっています。ゼミ生同士の議論は、時には白熱し、時間が延長する場合がありますが、できる限り多くのゼミ生がコメントできるように配慮しています。

武藤先生は、地方分権推進委員会参与のほか、自治体の審議会委員などを歴任されていることから分権や自治体のあり方について造詣が深いほか、道路行政についての第一人者であり、政権交代後は高速道路無料化の是非についての議論で脚光を浴びています。こうした経験に基づいた武藤先生



武藤研究室

からの指摘は、磨かれた鋭い視点からのものであり、発表するゼミ生にとって貴重な時間となっています。

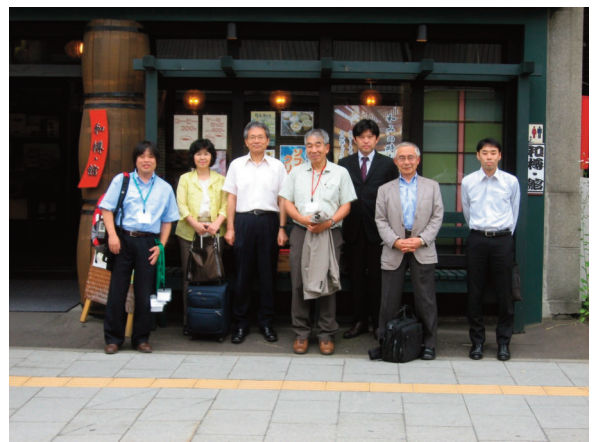
最近では行政制度の比較研究のため、渡航するゼミ生も多いことから、お土産が持ち込まれるほか、居酒屋に繰り出して議論を深めることもあります。こうしたひとときが、研究の疲れを癒すほか、刺激を与えてくれることから、多くのゼミ生がアフターゼミの交流を楽しみにしています。こうした家族的な雰囲気でのゼミ運営がなされるのも、武藤先生の懐の深さの賜物といえます。(小池秀幸)

コラム キャンパスライフ ③ 探せば、探すだけ何かが見つかる!

社会人大学院生と勤務を両立させながら今年の前期は、木曜日と土曜日の週2回大学院で受講しています。土曜日は修士課程の政策ワークショップのTAを担い、朝8時〜9時には大学院へ着くようにしていたので、通勤より早く出ました。

平日昼間は大学院の活動が出来ませんが、その間隙を縫い学会発表や資料調査などを行い、この6月には北海道で開催した観光学会で研究発表を行いました。

研究成果を学会で発表することは、万全を期して臨むものではありませんが、各大学の先生や専門の研究者から貴重なご意見をうかがえる機会でもあり、それが機会となって研究者間の交流がはじまり、より研究



岡本研究室の視察

を深めるきっかけになります。

また、同じ研究分野の研究者や他大学の大学院生の研究発表を拝聴することから、自身の研究度合いを判断する材料になります。

加えて、学会日程の間には札幌で観光者が訪れる観光対象や交通機関の実踏調査を行い、学会開催先も有効活用します。

日常は資料調査、論文探索を行い図書館や博物館、資料館などを巡っています。

この夏に入手した資料類では、身近な新宿区立新宿歴史博物館と旧新橋停車場鉄道歴史展示室のものに研究する分野の資料があり、近場の博物館にも目を向けています。研究と趣味を重ねたところでは、フィルムコンテントツールの歴史調査に着手して、資料探索と関連する戦後日本映画の

鑑賞から状況の確認を行っています。

この夏は、経営破綻して存在しない日本の映画会社作品で監督、女優別に特集上映の機会があり、週に2本ペースで映画鑑賞を行い、珍しい作品を確認しました。

また、当時の映画に主演した俳優、女優が何十年ぶりかで公に登場するトークイベントがあり、映画評論や映画史で語られた史実を直接確認することができ、貴重なインタビューの機会が得られました。(正木聡)

シンポジウム参加記

「縮小都市の未来」

——まちづくりの事例から考える——

2010年12月4日於法政大学外濠校舎

司会

尾羽沢信一（法政大学地域研究センター・

特任教授）

パネリスト

黒川和美（政策創造研究科・教授）

増淵敏之（政策創造研究科・教授）

恩田重直（政策創造研究科・講師）

2005年を境に、日本の人口は減少傾向にある。一部の都市圏を除いた地域では都市自体も規模を縮小させつつある。今までのように、国の援助に依存した状態では都市が成り立たない時代へと変貌してきた。

しかし、その時代の変化に対応できていない自治体は少ない。本シンポジウムでは、個性豊かな政策創造研究科の教授方にパネリストとして、それぞれの視点から事例を踏まえつつ「縮小都市の未来」についての講演を行った。

まず、司会者であり、法政大学地域研究センターの特任教授である尾羽沢先生から、「縮小都市の現在」というテーマで人口動向からみた都市縮小について、明治以前の日本や世界の他都市の人口との比較も交えつつ、日本の地方都市における人口減少の現状に関する説明があった。次に、恩田先生からは自らが現在、携わっている長野県の諏訪における中心市街地で増加している空き家について、歴史的な観点を踏まえながらスライドを中心とした内容の報告があ



シンポジウム風景

った。続いて、増淵先生から「縮小都市は『才能』を作る?」というテーマの話題提供があった。縮小都市が生き残るためのアプローチとして、近年よく使われるようになった創造都市との関係から論じたものである。最後に、黒川先生からは、都市が本

スカイホール
参加費—無料
懇親会—フォーラム終了後開催
(会費3,000円)

主催—法政大学大学院政策創造研究科
問い合わせ—法政大学大学院
政策創造研究科事務室

3月13日(日)
第186回住宅総合研究財団
江戸東京住まい方フォーラム
地域まるごとまあおこし」

「江戸東京野菜で、
江戸東京住まい方フォーラム
地域まるごとまあおこし」
時間—13時00分～15時30分
場所—江戸東京たてもの園内
「八王子千人同心組頭の家」
(東京都小金井市桜町3-7-1
都立小金井公園内)
資料代—500円
(当日徴収、小金井市民無料)
※但し資料代の他に別途園内観覧券が必要(一般400円、65歳以上200円、大学生320円)
主催—江戸東京たてもの園、
住宅総合研究財団
問合せ—住宅総合研究財団
江戸東京住まい方フォーラム事務局
TEL:03-3484-5381 FAX:03-3484-5794
http://www.jusoken.or.jp/edotokyohm

シンプジウム
3月9日(水)
「学生から見た熱海の地域活性に関するシンプジウム」
時間—13時00分～16時15分
場所—熱海 玉の湯ホテル
参加費—無料(事前登録不要、直接会場に来てください)
主催—地域活性機構
問合せ—地域活性学会事務局
株式会社エイチ・ユー(法政大
学関連会社) 教育事業部内
TEL:03-3264-9541 FAX:03-3264-9568
E-mail: chiiki@hosei-web.jp

3月12日(土)
「法政大学大学院静岡サテライトキャンパス 2010年度修了生成果報告発表会」
時間—14時00分～17時00分
場所—ふしみやビル9階902号室
(静岡市葵区呉服町2-3-1)
参加費—無料
主催—法政大学大学院
静岡サテライトキャンパス
問い合わせ—法政大学大学院
静岡サテライトキャンパス
TEL:054-255-7287 FAX:054-255-7288
E-mail:shizuoka-sc@ml.hosei.ac.jp

学
内イベント
3月24日 学位授与式
3月26日 静岡SC新入生ガイダンス
(B, nest 7階演習室C)
3月27日 新入生ガイダンス
4月3日 入学式
4月4・6日 健康診断
4月11日 政策創造研究科 授業開始
(12専攻は4月4日から)

編集後記
もうすでに3月に入り、修了を予定される方々は論文を提出し、発表会を終えられ、M1や博士課程の方々が中心の中間発表も終了しました。この春休みは、新たなフィールドへ向かわれる方々はそれまでの充電期間に、また、来年度の論文提出目指される方々は研究をじっくり深められる期間となることと思います。この時間を大切にしながら、4月に向けて活動していきたいものです。次号もお楽しみに。(堀江慶子)

政策創造学ニュースレター第9号
編集・発行
法政大学大学院政策創造研究科内
政策創造学ニューズレター編集委員会
(浅田眞澄美、井嶋充憲、鈴木美伸、
那須田摩美、堀江慶子、横井友美加)
発行—2011年2月28日

新着情報
3月8日(火)
坂本光司研究室公開フォーラム
「企業における障がい者雇用の最新動向」
時間—13時00分～18時00分
場所—法政大学市ヶ谷キャンパス
ボアソナード・タワー26階

http://chiikizukuri.gr.jp/

http://www.chiikizukuri.gr.jp/

http://www.chiikizukuri.gr.jp/

http://www.chiikizukuri.gr.jp/

http://www.chiikizukuri.gr.jp/

http://www.chiikizukuri.gr.jp/